



スポーツ

▼ローカル5G、歩行データの活用

兵庫県は三木総合防災公園において、地域限定の高速通信規格「ローカル5G」を地域スポーツの遠隔指導などに活用する実証実験を始めた。アシックスやNTT西日本、富士通、兵庫県立大学など九つの企業や団体等が協力する。

9月に行われたテニスの実証実験では、4Kカメラが撮影した映像をリアルタイムで遠隔地にいるコーチに送信し、映像を確認しながら細かな点を指導した。指導者が不足する過疎地などでのスポーツ環境の改善につながる可能性がある。

また、三木市とアシックスは、歩行データ、位置情報を利用して、健康増進や高齢者の徘徊防止などにつなげる実証実験を10月より緑が丘地区で開始した。被験者が小型センサー内臓のシューズもしくは足首バンドを着用して同地区内を歩くと、歩数データや歩行距離、大まかな位置情報がリアルタイムで送信される仕組みとなっている。受信したデータを同社が開発したデータ分析システムで管理、分析し、歩数や移動経路を可視化して把握することで高齢者の運動不足解消や徘徊による事故防止につながる。将来的には運動不足によって生活習慣病などの重篤化を未然に防ぐ効果が期待される。

日本酒

▼ローカルSDGsの酒造り

兵庫県内の酪農家1、山田錦生産農家3の合計4農家と日本酒蔵元4社は、神戸新聞社と共同で「地エネの酒 for SDGs プロジェクト」を2020年から始めた。

これは「①乳牛のふん尿や食品残渣の発酵↓②自然エネルギーと有機肥料の生成↓③酒米の生産↓④日本酒の醸造」という資源循環により地球環境への負担を減らす取り組みである。

①②の段階の効果として、ごみ処理費用の削減、およびバイオガスから得られる熱や電気により、エネルギーの自給や化石燃料の使用削減が期待できる。

また②③の段階では、発酵の副産物である「消化液」を有機肥料として山田錦の栽培に使用することで、化学肥料や殺虫剤、除草剤の使用をやめ、それらの散布にかかる機械作業を大幅に減少させることができた。参加している農家には稲作にかかっていたエネルギー消費を4割減らせたところもある。

そして③でできた酒米を神戸、加西、加古川、宍粟にある蔵元4社がそれぞれ醸造し、純米吟醸酒が誕生した。

この①④の一連のサイクルで造られた日本酒は「地エネの酒環」と名付けられ、昨年からは販売されている。

播州織

▼劇団四季、大手セレクトショップと連携

西脇市は、2021年3月に劇団四季と同市特産の播州織をミュージカルのステージ衣装に採用する連携協定を締結した。同劇団が自治体と連携するのは初めてで、8月に公開された新作ファミリーミュージカル「はじまりの樹の神話」こそあの森の物語」で用意された衣装51着のうち31着に播州織の生地が使われた。このミュージカルは今年1月に神戸市と西脇市で上演される予定である。また、舞台衣装の生地を提供したことをきっかけにイタリア在住のデザイナーによるアパレルブランドと劇団四季がコラボし、播州織素材のスカートとネクタイが発売されている。

さらに同市は大手セレクトショップ運営会社と連携して「播州織製品プロモーション事業」を実施した。同市が21年4月に事業者を募集したところ、17社の応募があり、同運営会社を選んだ8社が参加した。各社は運営会社のアドバイスをもとに特色あるバックや洋服、帽子などの製品25点を完成させた。製品はセレクトショップの新宿の特設売り場において期間限定（21年10月から11月）で販売され、現在はオンラインショップで販売中である。また、同市のふるさと納税の返礼品としても採用されている。